品質保証規定

1.保証修理を受けるための手続き及び条件

保証修理をお受けになる場合は、自転車と本保証書を、お買い上げ店または当社カスタマーサービスへ、ご連絡あるいはご持参いただき、保証修理をお申し付けください。(尚、運送業者による引取り・配送を行う場合もございます。)本保証書の提示がないときは保証修理をお受けできません。

＊本保証書の字句等を使用者が書き換えた場合は無効となります。
＊ご贈答・ご転居および他に譲渡する場合は、お買い上げ店または社カスタマーサービスにご相談ください。
＊お買い上げの日から２ケ月以内に点検をお受けください。以降年１回定期点検整備をお受けください。定期点検・調整は有料です。(尚、当社カスタマーサービスで定期点検をお受けになる場合は、別途配送料が必要になります。)
＊この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体番号の刻印があるものに適用されます。海外に持ち出す場合は、その時点で打ち切りとなります。(This warranty is valid only for JAPAN.)
＊出張修理は行っておりませんのでご了承ください。
＊保証修理に関するお問い合わせは、お買い上げ店または当社カスタマーサービスにご相談ください。

2.保証できない事項

(A) 次に示すものに起因すると判断される故障は保証対象外です。

1. 取扱説明書に従わない使用、取扱不注意(乗車定員、最大積載量などのオーバーならびに警告・注意・禁止・強制等厳守事項の無視など)による場合。
2. 衝突・転倒・道路の段差等への乗り上げまたは溝などに落ちて生じたもの。
3. 法令の違反行為により生じたもの(二人乗り、最大積載量オーバー・夜間無灯火等)。
4. 保守・整備の不備、または間違いにより生じたもの。
5. 当社が指定する定期点検調整を実施しなかった場合。
6. 使用者が構造・機能を改造または変更したために生じたもの(当社で設定した部品以外を使用した場合。)
7. レース・ラリー・トライアル・練習等の酷使および、一般に自転車が走行しない場所での走行(道のない山岳ツーリング、土手の傾斜面等)により生じたもの。
8. レンタルサイクルなど不特定多数で使用される場合。
9. 地震・落雷・火災・水害・公害・その他人災・天災・地変によって生じたもの。
10. 手入れ不十分。保管場所の不備および時の経過により生じた不具合(メッキ・塗装・カラー部品の自然褪色・サビ)、およびプラスチック部品等の自然褪色。
11. 部品の通常の磨耗または疲労と認めたもの(タイヤ・チューブ・ブレーキ用ゴム等のゴム類)。
12. くぎ・ビン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ・リム打ち・いたずら等で生じるパンク。
13. 一般に機能上問題のない感覚的現象(音・振動)。
14. ペダルの取り付け不備による故障。
15. 使用中に発生した塗装傷・フレームなどの変形。

(B) 次に示すものの費用はお客様のご負担となります。

1. 保証対象外部品、およびその交換費用(ブレーキゴム、ワイヤー、タイヤ等の磨耗による交換等)。
2. 点検(定期点検を含む)整備、清掃等の費用。
3. 本保証書に示す条件以外の費用。
4. 本製品の故障に起因する付随的費用(本製品を持ち込むために要した費用、修理期間中における代品費用等)。

(C) ～保証修理対象外部品～(次の交換修理はご使用者負担)

タイヤ・チューブ・スポーク・ブレーキゴム・パット類・グリップ・フラップ・フレームポンプ・口金・カゴ・バッグ・バルブセット・サドル・サドルポスト・ドレスガード等の付属品・ペダルゴム・トゥクリップ・バーテープ・エンドプラグ・リフレクター類・ハブキャップ・ベル・ブレーキワイヤー・ギヤチェンジ用ワイヤー・ワイヤー取付金具、コード類・ダイナモゴムローラー・荷台・チェーンカバー・スタンド・カギ・バックミラー・乾電池・電装品・電球・レンズ・工具・小ネジ・ナット・スプリング・磨耗品および疲労品など

3.保証機能部品について

保証期間経過後でも、性能を維持するための保証機能部品が必要な際は、お買い上げ店または当社にご相談ください。生産中止になった場合は代替品での対応になる場合がございます。予めご了承願います。

品質保証書及び自転車販売証明書

防犯登録の際にこの販売証明書をご持参ください。

お買い上げ年月日　　年　　月　　日 ●保証期間は、お買い上げ日より1年間(ただし保証規定による)・初期不良の交換は7日間以内

ご芳名(自筆ご署名ください)　　〒

品質保証書を受け取りました。　　電話　　(　　)

商品名	型式名	カラー
車体番号	防犯登録番号	売価

■自転車について
この自転車は、当社の製品規格に基づき厳重な品質管理と検査のもとに製造されたものです。お客様の通常の使用または当社の取扱説明書に従って使用された状態で、万が一品質上の不具合がおこりましたときは、保証書の内容により、保証修理実施店で無料修理(以下保証修理)を致します。なお、保証修理は補修または部品の交換によって行い、交換した不具合部品は弊社の所有となります。

■保証書について
この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。尚、この保証書は、紛失されても再発行はいたしませんので、十分に内容を確認した上、大切に保管してください。

■購入時の点検
詳細は、取扱説明書をご確認ください。また、「点検・調整チェックリスト」に従い定期点検・整備を行ってください。

チェック欄	点　検	確　認
□	ペダルの取付け	しっかり固定されてスムーズに回転するか
□	ハンドル・サドルの締付け	上下・左右に力を加えて動かなければよい
□	ブレーキの利き	レバーと握りの間が2分の1になるまでにブレーキが利けばよい
□	タイヤの空気圧	適正な空気圧であるか
□	ライトの点灯確認	ライトは点灯するか
□	ベルの作動	よく鳴るか、破損はないか
□	変速機の作動	正しく変速するか

【保証責任者】
365 MIMUGO
株式会社ミムゴ
福岡県糟屋郡粕屋町仲原 2841-5
TEL:092-622-0009(代)

【販売店名】

電話　　(　　)　　印

※商品名や型式名の記入は、自転車本体に貼付してあるシール、またはお送りした箱の側面の記載をご参考ください。
※通信販売でお買い上げの場合や、景品・記念品として受領された場合には、販売店の日付が入った伝票、あるいは運送会社の送り状をご提示ください。

JIS規格基準耐振テスト適合品

幼児2人同乗基準適合車
社団法人自転車協会

BAAマーク取得

チャイルドシート付3人乗り対応

三輪自転車取扱説明書

必ず保管してください。

Bambina

当社製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。弊社では、常によりよい製品を目指し、仕様・デザイン・生産技術等、あらゆる面でさまざまな改良を積み重ねております。つきましては、この取扱説明書に記載されている仕様ならびに装備において、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

輸入発売元

〒811-2304 福岡県糟屋郡粕屋町仲原2841-5
TEL:092-622-0009　FAX:092-622-0099　mail:info@mimugo.co.jp
カスタマーサービス:0120-515-380(平日 AM10:00～PM5:00)

快適・安全にご利用いただくために必ずお読みください

●必ず防犯登録を行ってください。(詳細は6ページをご参照ください)
●読んだ後は大切に保管して必要に応じてご活用ください。
(販売の証明となる伝票や、運送会社の送り状控えなども一緒に保管ください。)
自転車を他人に譲る場合は、この取扱説明書も一緒にお渡しください。
●購入後の初期点検およびに定期点検は、必ず実施してください。
●この自転車の取扱・点検・調整などについて不明な点はミムゴ、またはお近くの自転車店にご相談ください。
●整備や故障、修理などで部品を交換される場合はミムゴ、またはお近くの自転車店にご相談になり、自転車が常に完全な状態であるようお心掛けください。
●この説明書の中には、お買い上げの自転車にあてはまらない部品説明も含まれていますが、ご了承ください。
※フロントのチャイルドシート及びバスケットの有無(変更)によって、ブレーキの調整方法が変わります。
万が一、購入時と異なる仕様に変更して走行する場合は、再度ブレーキの調整が必要になります。

警告表示　警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示していますので、特に注意してください。

警告　取扱を誤った時に、使用者が死亡もしくは重傷を負う危険性が想定されるもの。

注意　取扱を誤った時に、使用者が傷害を負う危険が想定されるとき及び物的損害のみの発生が想定されるもの。

禁止　危険の程度とは関係なく道路交通法で禁止されている行為。誤ると思わぬ事故・けがを負う危険が予知されるもの。

強制　使用者に必ず実行していただきたいこと。

1.はじめに

自転車にチャイルドシートを取り付けた状態でお子様を同乗させると、自転車のハンドル操作や走行安全性が悪くなり、制動距離も長くなりますので、十分に注意してください。

2.チャイルドシートご使用の目安

・フロントシート/1歳以上、体重15kg以下、身長100㎝以下のお子様　・リアシート/2～5歳位、　体重20kg未満、身長115㎝以下のお子様
※上記の範囲内であっても、乗せるお子様の体格が大きくなるほど、運転しづらくなります。安全に運転ができることを確認の上、ご使用ください。また、安全のため、チャイルドシートにお子様を乗せた場合の運転者は、16歳以上の方に限ります。お子様を乗せる前に、安全な場所で十分に練習をしてください。無理なご使用や、間違った取扱いで転倒や事故の可能性に繋がります。必ず、使用方法をお守りください。

⚠ 警告事項（危険です。必ずお守りください）

幼児２人同乗時の注意

お子様を２人同乗させたときの注意事項

① お子様を2人同乗させて自転車に乗ることにより、転倒の可能性が増大します。必ず安全な場所で練習してからご使用ください。また発進時や低速走行時には、ハンドルが振れることがありますので、特にご注意ください。

② 自転車に乗車する際には、スニーカー等、かかとの低い靴を履いてください。また、スリッパや脱げやすい靴は避けてください。

③ フロントチャイルドシートを装着した場合、前方（特に下側）が見えにくくなります。視界を確認して、前方の障害物によく注意してください。

④ 全体の質量が増す分、衝突等の場合は衝撃が大きくなります。その結果、同乗幼児及び乗員の被害が大きくなります。また、歩行者等と衝突した場合には、歩行者等の被害も大きくなります。十分にご注意して走行ください。

押し歩き時にバランスを崩しやすい状況

以下のような状況になると、お子様を同乗させた状態では、自転車の立て直しができずに転倒することがあります。

① 狭いところを押し歩いたり、歩行者や自転車と接触したり、同乗させているお子様の動き、路面の凹凸・傾斜等によりバランスを崩して反対側に転倒することがあります。

② ハンドルを大きく切った際に、前輪が前又は後に意図しない回転をして転倒することがあります。傾斜面や路面の凹凸があるところでは、特に起こりやすくなります。

バランスを崩しにくい押し歩きの方法

押し歩き時には同乗幼児の動きや路面の凹凸・傾斜などによる、わずかなバランスの崩れによって、自転車の立て直しができずに転倒することがあるので、お子様を自転車から降ろして押し歩きをしてください。やむを得ず、お子様を同乗させて押し歩きを行う場合には、転倒のリスクがありますので、以下の事項を考慮して慎重に押し歩きを行ってください。

① 自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルをしっかり握り、ブレーキがすぐにかけられるようにしてください。

② 同乗のお子様が動かないよう注意するとともに、路面の凹凸・傾斜などに注意して、バランスを崩さないようにしてください。

③ 押し歩きのための十分な空間があることを確認して、混雑した場所は避けてください。

三輪の自転車にかかる注意事項

① 路肩や歩道等の左右への傾斜によりハンドルが取られ、転倒の危険がありますのでご注意ください。

② 曲がるとき回転半径が大きくなり、無理に曲がろうとすると、転倒の危険があります。

お子様をチャイルドシートに乗せる前に

チャイルドシートの取付取扱説明書をよく読んでご使用ください。

使用するときは、チャイルドシートの取り付けが確実であることを確認してください。

破損、変形等したままでは使用しないでください。

安全の為、同乗させるお子様には必ず自転車用の幼児用ヘルメットを着用させてください。

ヘルメットを着用させないでチャイルドシートにお子様を乗せますと事故時に致命的な障害を受ける確率が高くなります。

スタンドが安定した状態で立って、ロックされているか確認してください。

お子様の乗せ降ろしは地面が平らな場所で行いましょう。

お子様を乗せる際に、前車輪・安全ロックが掛っているか確認してください。

後ろのチャイルドシートのステップに足をかけて乗車させないでください。

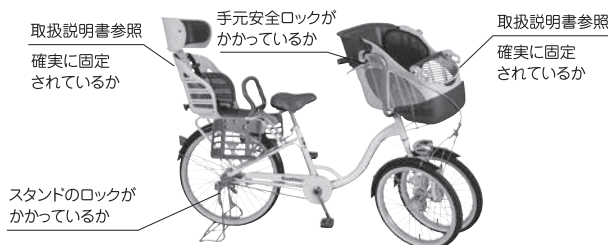
ステップが破損して怪我をする恐れがあります。保護者が直接シートに乗せてあげてください。

お子様を乗せたまま放置しないでください。荷物よりも後に乗せ、降ろす時は先に降ろしてください。

禁止　お子様を乗せたまま駐車したり、自転車から離れないでください。転倒の危険があり、大変危険です。

お子様が正しい姿勢であることを確認してください。

車輪などの可動部に触れさせないでください。車輪に巻き込まれ、けがをする恐れがあります。特に足の位置に留意してください。

シートベルトを着用して、お子様がシートから落ちないようにしてください。

⚠ 警告事項（危険です。必ずお守りください）

自転車に乗る時の注意

禁止　積載条件をこえるお子様や荷物を積まない

接触やバランスをくずし転倒によるケガのおそれがあります。

●積載重量………… 前部チャイルドシート・・・15Kg
　　　　　　　　　後部チャイルドシート・・・20Kg

警告　サドルやハンドルは引上げ限界線より上に上げた状態で乗らない

サドルやハンドルがはずれたり折れたりして、転倒によるケガのおそれがあります。最も高くした場合でも、シートポストおよびハンドルポストの下端が、6.5cm以上パイプに入るようにしてください。シートポストおよびハンドルポストの限界線（MAX）が見えてはいけません。

警告　車輪の脱着やサドルの調整後、締め付けを確認しないまま乗らない

車輪やサドルが外れて、転倒によるケガのおそれがあります。必ず乗る前に確認してください。

禁止　ハンドルの形を変えない

ハンドルを上向きや前向きにして乗ると、乗車姿勢が不自然なため走行が不安定となり、転倒しケガをするおそれがあります。

警告　グリップ（ニギリ部）のゆるんでいるものには乗らない

グリップ（ニギリ部）の弾性が低下し、回るものは、ハンドルから抜ける恐れがあり、大変危険です。自転車店ですぐに取り換えてください。

禁止　自分で改造しない

部品が外れたり、こわれたりして転倒し、ケガをする恐れがあります。

強制　修理や部品の取り付けは自転車店にご相談ください。

禁止　異常があるときは乗らない

点検しないで、異常があるまま走行すると、転倒によるケガのおそれがあります。

強制　異常を発見したら自転車店にご相談ください。変形・ヒビ割れ等異常のある部品は必ず交換してください。曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。衝突したとき、前フォークが曲がることによりショックを吸収し乗員のケガを防止する役目をもっています。

警告　車輪・ギア・チェーンなど回転しているところに手を触れない、触れさせない

車輪に巻き込まれたり、はさまれたりして、ケガをする恐れがあります。

禁止　ブレーキの制動面に注油しない

ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。

禁止　走行中ブレーキワイヤーを引っ張ったり曲げたりしない

禁止　坂道で駐停車をしない

坂道で駐停車をすると思わぬ事故が発生する恐れがあります。

強制　平坦で安全な路面に止めてください。三輪自転車の場合、必ず前車輪ロック装置を作動させてください。

禁止　リフレクターが汚れていたり破損したままの状態で乗らない

テールランプおよびリフレクターは後続の車両からの確認をするうえでたいへん重要です。汚れや損傷のない状態で使用してください。

禁止　ハンドルから手を離さない

（手放し運転や傘をさしての運転、携帯電話の使用など）

バランスを崩して転倒し、ケガのおそれがあります。また、危険を回避するための急な操作ができず、事故をまねく恐れがあります。片手運転は絶対に禁止です。

禁止　外部の音を遮断した状態で乗らない

イヤフォンやヘッドフォンを装着した状態での使用は、周囲の状況把握ができず注意力が低下し、事故をまねく恐れがあります。

警告　スポークの間に固形物（ボール等）を入れて走らない

固形物が移動しブレーキやダイナモに接触し転倒する恐れがあります。

警告　傘やステッキ、釣竿などを車体に差し込んだり、吊り下げたりしない

車輪をロック（固定）させたり、歩行者にケガをさせるおそれがあります。

警告　手やハンドルに荷物を下げたりペットをつないだりしない

バランスをくずして転倒しケガの恐れがあります。

強制　荷物はキャリア（荷台）やバスケットに積んでください。

警告　乗るときは巻き込まれやすい服装や荷物は避ける（長いスカートやマフラー、傘など）

車輪やギアに巻き込んで転倒によるケガの恐れがあります。着物やスソの長いスカートなど、動作のしにくい服装はおやめください。

⚠ 警告事項（危険です。必ずお守りください）

自転車に乗る時の注意

スピードを出しすぎない
禁止

スピードを出しすぎると、ハンドル操作が難しく、ブレーキも効かなくなり、事故を招くおそれがあり危険です。

カーブではスピードを出さない
禁止

曲がりきれずに思わぬ事故を招きます。必ず手前で十分な減速をしましょう。

ぬれた道や下り坂ではスピードを出さない
禁止

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、思わぬ事故や転倒によるケガのおそれがあります。

ハンドルを急に切らない
禁止

ハンドルを大きく切った際に、前輪が前、または後ろに意図しない回転をして転倒するおそれがあります。

急ブレーキはかけない
禁止

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する恐れがあります。前方に注意して安全走行してください。

片側ブレーキはかけない
警告

片側ブレーキ（特に前ブレーキ）をかけると、バランスを崩して転倒し、ケガをするおそれがあります。走行中は常にブレーキレバーをすぐ握れるようにしてブレーキは前後ともかけてください。

カーブではブレーキ操作に注意
警告

横すべりをおこし転倒する危険があります。スピードを落として走りましょう。

カーブで曲がる側のペダルを下にしない
警告

ペダルが地面と接触し転倒によるケガの恐れがあります。自転車は自動車と違い、コーナリングでカーブするとき、内側に傾きます。この傾斜によって遠心力と自転車の重量のバランスをとるのです。スピードを出しすぎていると、このバランスが崩れカーブを曲がりきれなかったり、道路のセンターラインを越えてしまったりする場合があります。

ギア変速は一度に２段以上しない
警告

一気に変速すると、チェーンが外れて転倒によるケガの恐れがあります。必ず一段ずつ変速してください。

自動車の横を走り抜けるときはスピードを出さない
禁止

自動車のドアが急に開き衝突の危険があります。

スタンドを完全に跳ね上げていない状態で乗らない
警告

カーブのときスタンドが地面と接触し転倒によるケガの恐れがあります。

強制

スタンドを上げるときは、必ずロックを解除してください。

凹凸の激しいところを走らない
禁止

（歩道の段差や溝、階段など）

① **凹凸では…**
簡易舗装の道では、いたるところに穴があいています。スピードをおさえて通りましょう。

② **軌道敷では…**
原則として入ってはいけません。もし入るときには、軌道敷のすき間にタイヤを挟まないよう十分注意してください。危ないと思ったら、降りて押して通ってください。

③ **山路では…**
路面が荒れています。落石にも十分気をつけてください。ガケくずれの危険がありますので、路肩に寄りすぎないよう注意が必要です。凹凸状態の道ではペダルが地面に接触しないよう道を選んで走ってください。

④ **ジャリ道では…**
ハンドルがとられ、ふらつきやすいうえ、スリップしたり、タイヤ、リムを損傷するおそれがあります。無理に乗らず、降りて押しましょう。

山岳・河川などでは、絶対に使用しない
禁止

ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキが効かなくなったりして、転倒してケガをするおそれがあります。

すべりやすい所では乗らない
禁止

（市街地の溝、雪道や凍結した道、工事用の鉄板の上など）スリップして転倒によるケガのおそれがあります。避けて通るか、押して歩いてください。

雨・強風のとき
禁止

① **雨のとき…**
服装（雨具）を整える。傘を持っての片手運転は絶対におやめください。雨ガッパやレインコートを着るときは、裾が引っかからないように、必ずセイフティバンド、輪ゴム、クリップなどで留めてください。また、雨の日はブレーキが効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

② **強風のとき…**
ハンドルがふらつきやすく、安全に運転できません。降りて押して歩きましょう。

視界の悪いときは乗らずに押して歩く
禁止

見通しが悪いと、衝突や転倒のおそれがありますので、乗らずに押すようにしましょう。

視界が悪い時は無灯火で乗らない
禁止

（夜間や霧などのときは必ずヘッドライトをつける）

自転車各部の名称

自転車はイメージで、実際の商品とは異なる場合があります。

（左ハンドル側）

1. フレーム	10. 前部チャイルドシート	19. タイヤバルブ	28. シートポスト
2. ハンドルバー	11. 後部チャイルドシート	20. ハブ	29. サドル固定レバー
3. ハンドルポスト	12. 鍵	21. ペダル	30. 変速レバー
4. ハンドルチューブ	13. ライト	22. クランク	31. 変速機
5. グリップ（ニギリ部）	14. ライト手元スイッチ	23. スタンド	32. 変速機ワイヤー
6. ブレーキレバー	15. 前フォーク	24. チェーン	33. リフレクター
7. ベル	16. スポーク	25. チェーンカバー	34. フリーホイール
8. ブレーキワイヤー	17. タイヤ	26. 泥除け	35. 車輪ロック装置
9. ブレーキ	18. リム	27. サドル	36. フロントアームリンク

機能について

変速レバー（30）（右ハンドルグリップ）

内装3段切替変速ギア付き。状況に合わせてギアを切替え、好みの漕ぎ心地にできます。ハンドルを握ったまま切替できるグリップシフター式です。シフトチェンジの際は、ペダリングを止めてください。

ライト手元スイッチ（14）（左ハンドルグリップ）

グリップ式のライト手元スイッチで、ライトの点灯もラクラクです。（走行中のライト操作は、破損や事故の恐れがあるため、おやめください。）

前車輪・安全ロック（35）

手元のレバーで前輪をロックすると、ハンドルが左右にぶれなくなります。お子様や荷物の乗せ降ろしに前ハンドルが固定されて安心です。駐輪時は、必ず平坦な路面に停車した状態で、操作を行い、しっかりロックされたことを確認してください。（５ページ参照）

ラクチンスタンド（23）

テコの原理を応用した、L字型のラクチンスタンド。軽く踏むだけで比較的、楽に立ち上がり、自動的にロックがかかります。両手でしっかりと自転車を支え、L字の部分を踏むようにスタンドを立てます。ロックがかかったか、必ずご確認ください。

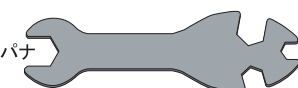
タイヤサイズ・空気圧・耐加重・付属品

※付属品は、カゴの取り外しの際等にお使いいただけます。

タイヤサイズ	空気圧	耐加重
20インチ 20×1.75	40-65PSI/280-460KPA	65kg（振動7万回以上）
24インチ 24×1 3/8	44-65PSI/300KPA	65kg（振動7万回以上）

付属品

●六角レンチ

●簡易スパナ

乗る前の点検

強 制

■初期点検・定期点検について

購入後２ケ月以内は、ネジなどのなじみの影響でゆるみが生じやすいので、２ケ月以内に初期点検を受けてください。また、初期点検のあとも異常を感じた時はもちろん、１年ごとに定期点検は受けてください。（有料）

■乗る前の点検について

安全にご乗車いただくために、乗る前に必ず点検を実施してください。点検・調整をしたあとは、必ずテスト走行をしてください。異常があった時や、わからない点がある場合は、乗る前にカスタマーサービスまでご相談ください。部品に異常や変形がありましたら、そのまま乗車せず、即座に部品の交換・修理を受けてください。そのまま乗車を続けますと、思わぬケガや事故につながる危険性があります。

■各部品の交換時期

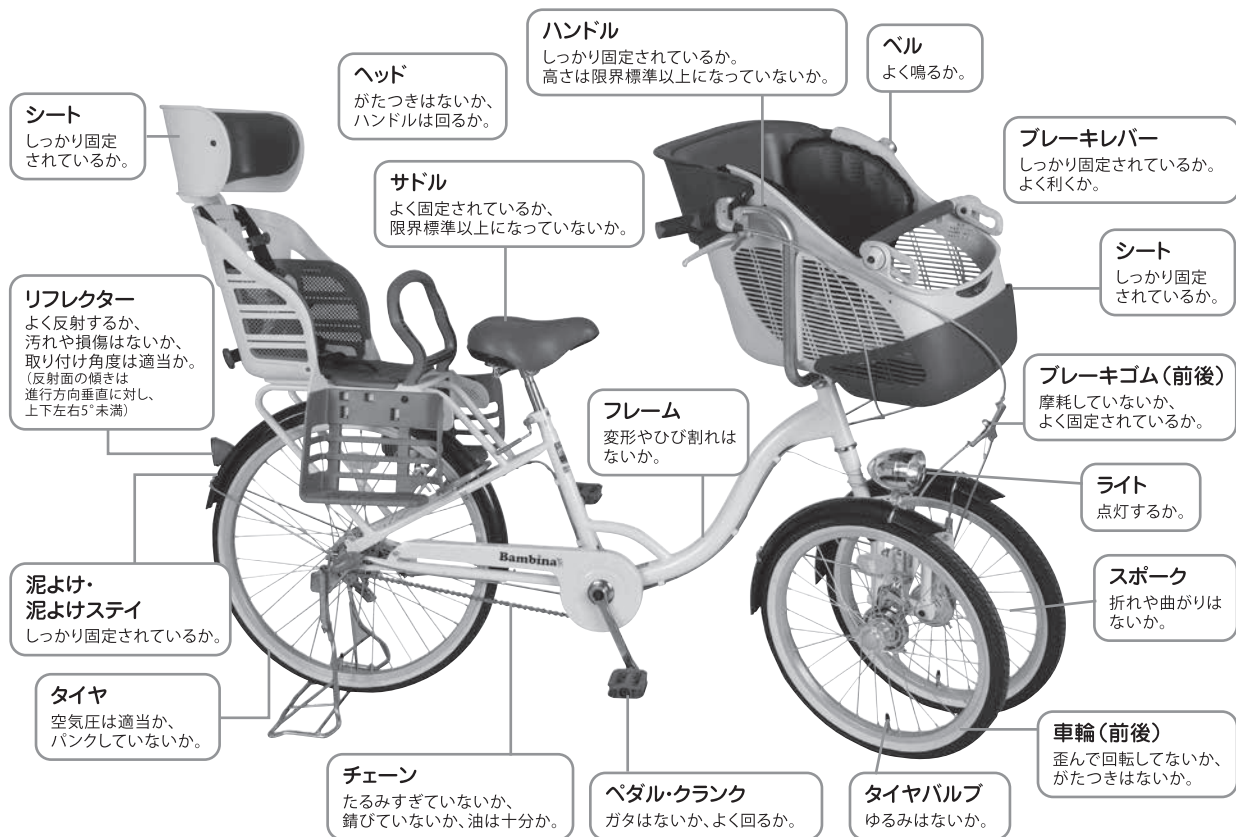
- ●ブレーキワイヤーは、異常がなくても２年に１回は交換してください。
- ●タイヤは接地面のトレッド溝が一部でもなくなる前に交換してください。
- ●ブレーキゴムは制動面の溝が残り1㎜になる前に交換してください。

禁 止

部品やフレーム類の変形や曲がりを直しての再利用は絶対にしないでください。

点検の項目

前車輪ロック装置について

強 制

前車輪ロック装置（35）で、駐輪時に車輪を固定することができます。自転車を駐停車する時は、平坦な路面に停車した状態で車輪ロック装置を作動させてください。

ロック 前ブレーキレバー（6）を強く引き、そのままの状態で、前車輪ロック装置（35）を指先で引上げます。

解 除 前ブレーキレバー（6）を強く引き、手を離すと自動的に解除します。

強 制

●お子様の乗せ降ろしの際はロックされたことをご確認の上行ってください。●ロックがかかりにくい場合は、両手でしっかりと前ブレーキレバー（6）を引いてください。●坂道での駐停車はしないでください。平坦な路面に停車した状態で操作を行ってください。●前車輪ロック後、本体が動かないことを必ず確認してください。

お手入れの方法

日常のお手入れ

大切な自転車をいつまでも長持ちさせ、快適にお乗りいただくために定期的にお手入れしてください。
特に雨の後の掃除は念入りに行いましょう。

■メッキ部分

メッキ部分は、乾いた布で泥やホコリをきれいに落とした後に、防錆油やミシン油で磨いておくのが長持ちのポイントです。

■ステンレス部分

ステンレスでも材質により、放置するとサビが出る場合があります。表面の汚れを取り、乾いた布で拭いてください。

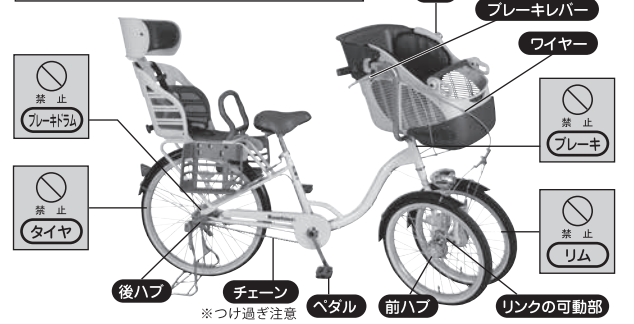
■その他

サドル、クリップ（樹脂部分）、ライト、泥除けの汚れは薄めた洗剤で拭き取るときれいに取れます。

■注油について

月に1度は注油しましょう。注油箇所は、絵の中の禁止箇所以外に、軽く注油してください。

■後部チャイルドシート

固定部分4カ所のねじに、ゆるみがないか点検してください。

※図、及び内容はイメージですので、実際の商品とは異なる場合があります。

こんなときどうする?

■転倒したとき

転倒、衝突したら、まず何より道路左側によって自動車を避けます。身体に外傷がある場合は、手当てを終えた後、自転車の状態を調べてください。異常がある場合（自転車を横から見て変形していないか、変速機、ブレーキレバー、ペダルは正常か等）は無理に乗らないで、押してください。必ずお近くの自転車店等で点検・調整を受けてください。

■パンクしたら

自転車店で修理してください。パンクしたまま乗りつづけますと、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押してください。

＜パンクの原因は＞
- ・クギ・ガラス破片などを踏んだ時。
- ・道路の穴に落ちたり、縁石に乗り上げた時。
- ・空気圧が少ない時など、日頃の点検や注意深い運転で避けられるものがほとんどです。

■交通事故

万一、交通事故を起こした場合は、相手が歩行者・自転車・自動車を問わず応急処置のあと速やかに警察に報告してください。事故処理など一切は警察の指示にしたがってください。

■ブレーキの故障やブレーキワイヤが切れたとき

すぐにお近くの自転車店等で修理してください。ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押してください。

■異常を感じたとき

日常点検および走行中に異常を感じた時は、すみやかに自転車店で点検・整備を受けてください。またはカスタマーサービスにご相談ください。

防犯登録について

■防犯登録とは

防犯登録は、防犯協会連合会が、公安委員会の指定を受け、自転車の盗難防止と被害の早期回復を目的に警察、地区防犯協会と自転車販売店（防犯登録店）のみなさまの協力のもとに実施しているものです。地域によっては、自転車防犯登録が義務づけられております。なお、指定を受けていない区域も「防犯登録を受けるよう努めなければならない」と規定されており、登録されますようお勧めします。

■登録の手続き

各都道府県の防犯登録加盟店（自転車店）、または最寄の交番および防犯協会（警察署の中にある）で防犯登録をすることができます。（有料）
（有料）※詳しくは、地域防犯登録協会までお問い合わせください。

■登録の際、必要なもの

- ●自転車本体（車体番号）
- ●品質保証書（取扱説明書・裏面の品質保証書に必要事項をご記入ください）
- ●販売店の日付が入った伝票、または運送会社の送り状
- ●お客様の身分証明になるもの（運転免許証・健康保険証・学生証など）

車体番号の刻印位置

車体番号はハンドルチューブ（4）下部に記されています。

廃棄時のお願い

自転車本体、部品を廃棄する際は、各自治体の指示内容に従って処理してください。